

ラジオNIKKEI

小児科診療 UP-to-DATE

2023年3月21日放送

しなやか女性医学研究者支援みやこモデル

京都府立医科大学 WLB 支援センターみやこ
副センター長 金子 美子

本学の紹介

本学は、明治5年（1872年）、青蓮院という寺院の一角に病療院として産声を上げました。西洋医学を取り入れ、鳥羽・伏見の戦いで重傷を負った幕末藩士らの治療にあたり、その後京都市内を流れる鴨川の西岸に居を移し現在に至ります。

医学部医学科と看護学科を有する医療系単科大学として昨年創立150周年を迎えました。

男女共同参画推進センターの発足と病児保育室の開設

いまでこそ働き方改革の気運は社会全体に広まり、男性女性に関わらず広く皆が自身の問題として捉えて関わっていく情勢にかわってきていますが、まだ10年15年前まではここまでの社会全体の雰囲気ではありませんでした。そんな中、本学は平成22年度、2010年に文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「しなやか女性医学研究者支援みやこモデル」に採択されたことをきっかけに、現在のみやこの前身である男女共同参画推進センターが設立され、合わせておもに女性医師・研究者の就労支援として、育児支援と就労・キャリアアップ支援を行って参りました。

キャリアデザインにおいては、女性医師のいわゆる「M字カーブ」が以前より大きな課題となっています。厚生労働省の医籍登録データから算出される年数別就業率の解析では、国家試験登録



後就業率ほぼ 100%であるものの、女性医師の場合、男性医師に比較して登録後は年々減少に転じ、医籍登録後 12 年、つまり 24~25 歳で医学部卒業と概算するとだいたい 30 代半ばから後半にかけて、就業率は 76%まで減少します。つまりいわゆる出産育児というライフイベントの時期におよそ 4 人に 1 人が離職・休職することになります。現在、女性医師が医師全体の 3 割以上という時代においては、M 字カーブで女性医師の 25%が休んでしまえば、同世代の医師全体の 1 割弱が休むことに相当します。女性医師の比率がもっと多い診療科では、さらに多くの負担が残った医師達にかかります。過重労働が問題になっている現状では、これらのロスをカバーすることは容易ではありません。結婚・出産のライフイベントの年代である 30 代は、ご存知のように医師としてはまだまだ専門医取得などに向け診療経験を積む重要な時期にあります。もちろん研究者としてもしかりです。この時代に、これほどの休職があるということは避けられないことではありますが、大きな課題です。

もう一つの課題は、その後、30 代後半から 40 代にかけて、休職・離職した女性医師の就労がしっかりもとのベースラインにもどらず、そのまま 20%、つまり 5 人に 1 人は離職したままになってしまっていることです。6 年もかけて医師免許を取得しその技術や知識を本来なら社会に還元していくべきところ非常にもったいない現状です。

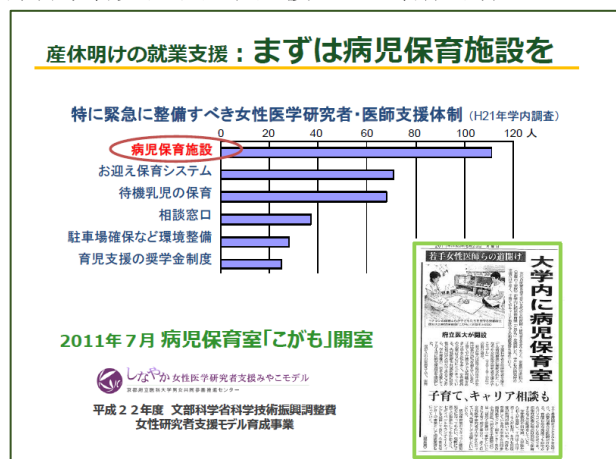
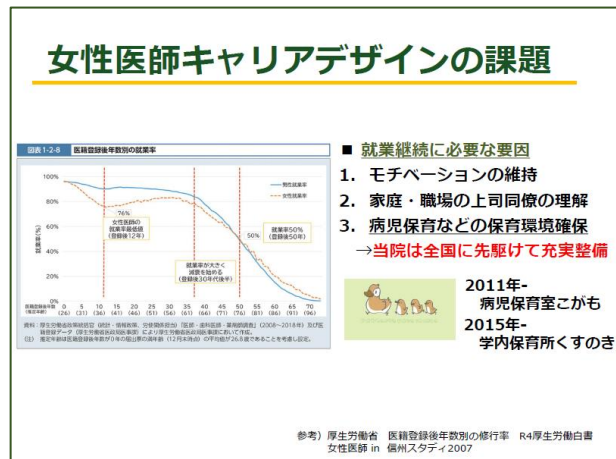
勤務継続・また産休あけの常勤勤務復帰を促し、かつ継続する要因は、過去の大規模追跡アンケート調査の結果 ①医師としてのモチベーションの維持、②家庭や職場の上司・同僚の理解、③病児保育を含めた保育環境の確保との報告があります。

勤務継続・また産休あけの常勤勤務復帰を促し、かつ継続する要因は、過去の大規模追跡アンケート調査の結果 ①医師としてのモチベーションの維持、②家庭や職場の上司・同僚の理解、③病児保育を含めた保育環境の確保との報告があります。

本学でも学内調査の結果、100 名以上から意見があり最も希望が多かったのが、病児保育施設に対する意見でした。これをうけて 2011 年、文部科学省女性研究者支援モデル育成事業の一つとして、学内に常設の「病児保育室こがも」が開室されました。

現場の声から勤務継続に必須な「病児保育の開設」にいち早く取り組み開設されたことは、私自身がこの病児保育に本当に助けられた利用者の一人として、本学の先輩がたに感謝の念はつきません。

本学の病児保育の特徴は二つあります。第



一は、前日夜からでもインターネットで予約ができることです。子どもの発熱はいつも突然、夜のことも多くあります。でも明日は外来や検査で自分は穴をあけられない、代理の確保や休診など今からでは無理だ……と絶望的な気持ちになる経験、これをお聞きの皆様にはありますでしょうか。核家族の我が家はこの制度にどれだけ助けられたか知れません。もう1点は、感染症対応をしてくれることです。通常病児の他、隔離室もあるため、インフルエンザ、おたふくなどの対応も可能です。本当にこがもが無ければ私も常勤職を継続できなかったと思います。

この近年のコロナ感染症については、医療従事者の師弟が多いことから受け入れには一定の事前ルールを設けました。2018年より京都市民枠を設け一般の方の利用受け入れを開始し、2019年度より運営を民間委託いたしました

京都府立医科大学 病児保育室「こがも」




総面積 : 98 m²
定員 : 8名(京都市民枠3名)
開室時間: 7:45~17:30
利用料 : 1日 2,000円



見守りカメラ設置 (2016年度)



京都市
病児保育事業

平成30年12月 京都市民受け入れ
令和元年7月 民間運営委託





男女共同参画推進センターから ワークライフバランス支援センターみやこへ

2010年に男女共同参画推進センターとして発足してから、当センターでは2大柱として、先ほどお話をさせていただきました子育て支援（病児保育室の運営）と、もう一つは、就労・キャリアアップ支援を行って参りました。フルタイム勤務ができない場合には、退職の選択肢しかなかった時代もありましたが、平成25年度以降は、週28時間勤務の時短勤務でも大学附属病院での常勤勤務が可能となる特定専攻医制度を導入し、多くの医師が専門医取得などに向けて研鑽を継続しています。また大学院卒業後、医学研究を継続する意思や業績もあるものの子育てと重なって研究が難しくなる場合が少なからずあり、女性研究者支援事業として身分と一定の給与を確保するヒューチャーステップ研究員制度を発足いたしました。また、研究継続するには時間的制約が多い若手教員を対象に、研究補助を担当する研究支援員を雇用し配置する支援事業を行ってきました。この研究支援員は主に本学医学科学

柔軟な勤務体制の選択を可能に

平成22年		平成25年以降	
基礎系	臨床系	基礎系	臨床系
	研修医		研修医
	勤務医		勤務医
	大学院		大学院
子育て期には時間的制約(+)	研究員	研究支援員配置	専攻医
	助教	FS研究員	助教
	講師・准教授	柔軟な勤務体制	講師・准教授
	教授	特定専攻医	教授
		助教	助教
		講師・准教授	講師・准教授
		教授	教授

就労支援からモチベーション支援まで

ハード面・ソフト面ともに柔軟にサポート



- ❖ ベビーシッター利用補助事業
- ❖ 病児保育・学内保育所
- ❖ WLBサポート利用スタート補助金制度
- ❖ 女子職員休養室・搾乳室の設置
- ❖ 妊娠-職場復帰までの手続きガイド

- ❖ 女性研究者支援事業
 - ・フューチャーステップ研究員制度
 - ・研究支援員雇用事業
- ❖ 研究者支援
 - ・WLB若手研究者賞
 - ・WLBみやこ賞

当センターの応援団として、広報・啓発事業の企画・運営にご協力いただく支援組織の キャリア支援コンソーシアム‘えん’があります。学内のみならず学外からも広く賛同いただける方にメンバーになって頂き支援をいただいております。ご興味のある方は、ぜひ本学 HP を御参照ください。<https://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/CCen.html>

「小児科診療 UP-to-DATE」

<https://www.radionikkei.jp/uptodate/>